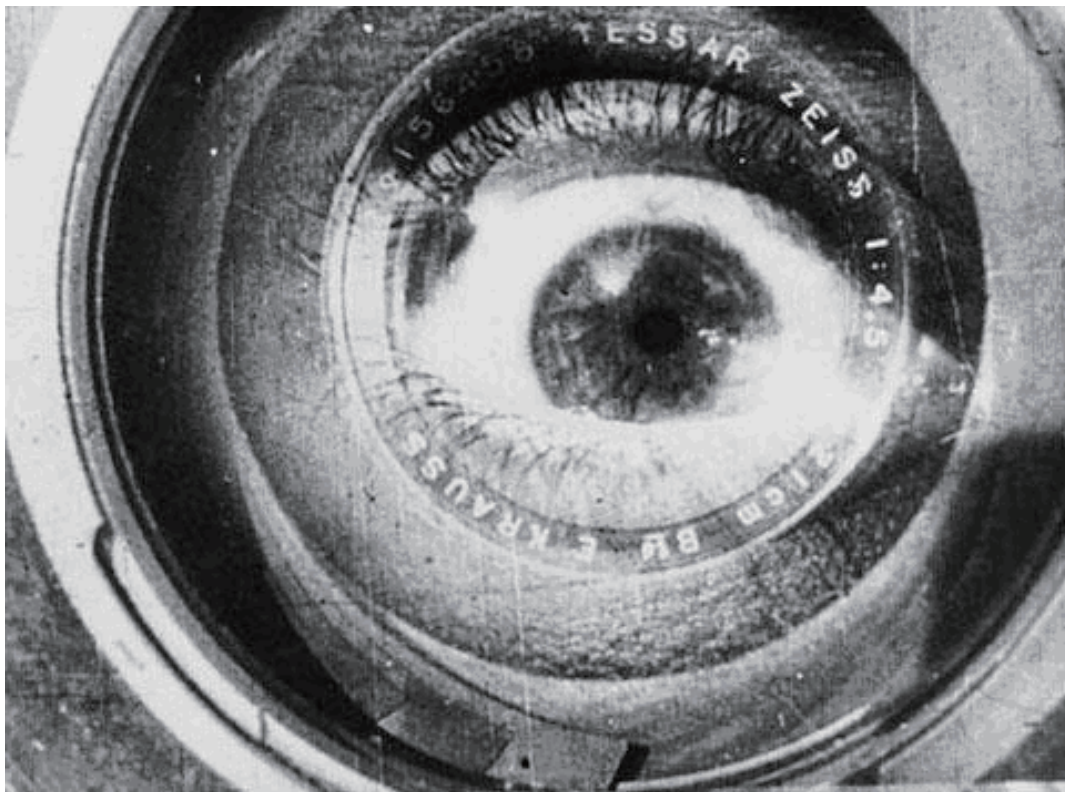


6つの眼差しと〈倫理マシーン〉

ドキュメンタリー作家にとって、カメラアングル、光線、ショットの切れ目の判断ひとつひとつに、倫理的な課題が立ちはだかる。カメラは倫理を担う装置である。7本の秀作ドキュメンタリーの上映と4つのディスカッションで〈倫理マシーン〉を探究する。山形国際ドキュメンタリー映画祭2013の特集企画。



▼10/12(土) 15:00~17:00 【美術館5】

事例討論「フェアユース運動の画期的な成功」

- ゲスト:ゴードン・クイン(映画プロデューサー『フープ・ドリームズ』)
- 聞き手:ジャン・ユンカーマン(映画監督『映画日本国憲法』)

2005年11月、アメリカのドキュメンタリタたちが、著作物を許諾なくとも「公正な使用(フェアユース)」できる条件を定義する声明を発表した。表現の自由と芸術の啓発をさげぎってきた、大企業を優遇する慣例を、自ら著作権者でもある映画作家たちがどのように改善したのか、そのサクセスストーリーを聞く。

▼10/13(日) 10:30~13:30 【美術館1】

上映+トーク『ゆきゆきて、神軍』



(日本/1987/日本語/16mm/122分/監督:原一男)

- 上映後トーク:原一男
- 聞き手:阿部マーク・ノーネス

元日本兵の奥崎謙三が、かつての戦友への取材で拳を使って戦争犯罪を問い、相手から言質をとっていく。原一男の映画はすべて、既存の倫理的境界と接触しながら、被写体と観客を新たな方向へと押しやっていく。

▼10/13(日) 15:00~17:00 【美術館5】

対談「映画監督と倫理」

- ゲスト:ジョシュア・オッペンハイマー(『殺人という行為』)
原一男(『ゆきゆきて、神軍』)

インターナショナル・コンペティション上映作品の監督と原一男が互いの作品について語り合う。

▼10/13(日) 19:00~21:20 【美術館1】

上映+トーク『レイプ』



(アメリカ/1969/ドイツ語/DVD/78分/
監督:ジョン・レノン、オノ・ヨーコ)

- 上映後トーク:キム・ドンリョン
パク・ギョンテ(『蜘蛛の地』)
- 聞き手:斉藤綾子

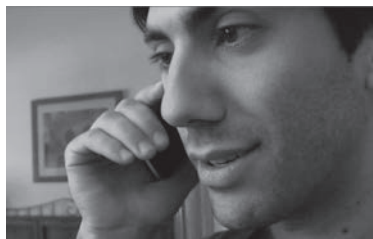
ある撮影隊が、墓地を散歩するひとりの女性の姿をカメラでとらえ、離さない。カメラの眼差しにひそむ暴力と被写体のジェンダーをめぐる問題。オノ・ヨーコとジョン・レノンが過激に提起する。

会場:山形美術館

〒990-0046 山形県山形市大手町1-63 Tel.023-622-3090(代表)
料金:当日一般1回券1,200円、回数券・前売り券あり、高校生無料
主催:特定非営利活動法人山形国際ドキュメンタリー映画祭
〒990-0044 山形市木の実町9-52 木の実マンション201
phone: 023-666-4480 fax: 023-625-4550 e-mail: info@yidff.jp

▼10/14(祝) 10:00~12:30【美術館1】

上映+トーク『キャットフィッシュ』



(アメリカ/2010/英語/DVD/86分
/監督:アリエル・シュルマン、ヘンリー・ジュースト)

■ 上映後トーク:関口祐加(『毎日がアルツハイマー』)

■ 聞き手:ブライアン・ウィンストン

フェイスブックで知り合った相手の本性は?映画制作者も被写体も欺瞞の蜘蛛の巣を編む。デジタル・テクノロジーは、古くからの倫理的な命題に新たなひねりを加える。

▼10/14(祝) 12:50~14:50【美術館5】

ディスカッション「6つの眼差しと倫理」

(アメリカ/2010/英語/DVD/86分/監督:アリエル・シュルマン、ヘンリー・ジュースト)

■ ゲスト:阿部マーク・ノーネス、ブライアン・ウィンストン、斉藤綾子

ドキュメンタリーの眼差しの6つの類型から、作り手の被写体や観客への倫理的責任を考える。

▼10/14(祝) 15:30~22:00【美術館1】

上映+トーク『北京陳情村の人々(ディレクターズ・カット)』



(中国/2009/中国語/Blu-ray (SD)/318分)
※約10分ずつの休憩

監督:趙亮(チャオ・リャン) / 第1部:衆生(104分)、
第2部:母女(111分)、第3部:北京南駅(100分)

■ 上映後トーク:趙亮(チャオ・リャン)

■ 聞き手:阿部マーク・ノーネス

辺境の地から権力の座である北京へ、陳情しに上京する人々。追い立てられ引き戻されながら、正義を求めて嘆願を続ける。個人にとどまらない大衆運動の可能性を描き出す野心あふれるディレクターズ・カット。

▼10/15(火) 10:30~12:15【美術館1】

上映+トーク『被写体』



(スペイン/2012/スペイン語/Blu-ray/45分/
監督:ヘルマン・シェールソ)

■ 上映後トーク:ヘルマン・シェールソ

■ 聞き手:ブライアン・ウィンストン ※ネット中継

超クローズアップでとらえた硬貨を、男の手のひらに押しこむ。監督が支払い、物乞いは演じるのだ。障がいのある被写体を、犠牲者として矮小化することを拒み、ドキュメンタリー製作における交換条件を探る。

▼10/15(火) 13:00~15:30【美術館1】

上映+トーク『戦ふ兵隊』・『糧なき土地』



『戦う兵隊』日本/1939/日本語/16mm/66分/監督:亀井文夫
『糧なき土地』

スペイン/1933-37/フランス語/27分/監督:ルイス・ブニュエル

■ 上映後トーク:阿部マーク・ノーネス
ブライアン・ウィンストン

世界映画史上の古典2作に、今も新しいドキュメンタリーの倫理の問題が迫る。いわゆる「仕込み」から再現による演出まで、テクニックを駆使してそれぞれの批評対象を鋭く撃つ。

▼10/15(火) 16:00~17:30【美術館5】

ディスカッション「震災映画と倫理」

■ 司会:斉藤綾子 ※ゲスト交渉中

《《 Special Event in Tokyo 》》

セミナー「ドキュメンタリー制作者のためのフェアユース」

インタビューした喫茶店で流れていた音楽は権利処理すべきか?
原発推進のプロモーションビデオを使って政府政策を批判する映画は作れるのか?
アメリカの例も引きながら、日本ではどうなのかを考えよう。
不要に著作権侵害をおそれたり見過ごしたりしないために、フェアユースを知る。

【参加者】

山上徹二郎(映画プロデューサー「エドワード・サイードOUT OF PLACE」)

ジャン・ユンカーマン(映画監督「映画日本国憲法」)

ゴードン・クイン(映画プロデューサー「フープ・ドリームズ」「スティービー」)ほか

◆日時: 2013年10月18日(金) 18:30~20:00

◆会場: 城西大学 紀尾井町キャンパス(3号棟31番教室)
(東京都千代田区平河町2-3-20 / TEL.03-6238-8500)

◆主催: 学校法人城西大学・日本/アジア映像研究センター
山形国際ドキュメンタリー映画祭・東京事務局
特定非営利活動法人・独立映画鍋

◆お問い合わせ: 山形国際ドキュメンタリー映画祭 東京事務局
TEL 03-5362-0672 / EMAIL mail@tokyo.yidff.jp

